



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010 推進ニュース — 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう!

**上伊那医療生協の総代会で、壇上から介護署名の協力を訴えて326筆!
総代会が始まる前に介護職員がステージに大勢登壇し訴えをしました(長野)**



2010年6月27日(日)は、上伊那医療生協の第26回通常総代会でした。会場の箕輪町文化センターの外と入り口で介護ウェーブ署名活動し、新人介護職も巻き込み、病院・老健はびろの里はもちろん、在宅ブロックの2つのデイサービスの介護職も集合して元気が出る署名活動ができました。そこでは327筆集まりました。少し今年は取り組みが遅れていますが、運動の手を緩めず続けていきたいと思っています。

はやしの社 は3月(少し前ですが)

全員で「輝き事例(自例)発表会」



東信が一番乗り～やりがい事例集発行



67人の力作ぞろいです。介護士さんの他、訪問看護や看護師さん・ケアマネさんからも寄稿されています。(2010年6月発行)

(長野民医連 みんなで笑顔に No.1 2010.07.15 より)

兵庫民医連主催「第4回介護事業所交流会」160名の参加で開催！ おかしいな？と思ったことは、訴え続けること、学習し行政と交渉することが大切(兵庫)

2010年7月15日(木)、兵庫県私学会館において第4回介護事業所交流会(県連介護福祉委員会主催)を開催し、講演と分科会を行いました。村上委員長の開会挨拶では、兵庫民医連の「介護ウェーブ」の取り組みなどが報告されました。

講演は、日下部雅喜氏(大阪社保協：介護保険対策委員)を講師に、介護保険をよくするための取り組みと現場の矛盾を変えるために何をしたらよいかを学ぶことを目的に「介護保険10年の検証と大阪における取り組み」と題して行われました。



介護保険は2010年に「介護の社会化・自立支援・利用者本位・尊厳の保持」を基本理念としてスタートしたが、社会保障改悪、4割以上が老々介護、介護殺人・心中という悲劇、介護職員の退職・転職問題など10年目の現実から「サービス制限・介護難民・介護崩壊」の危機により基本理念が投げ捨てられていること、介護職員処遇改善交付金の課題について、また大阪社保協が現場から発信された矛盾した内容(不当なローカルルール)についてあらゆる手段で大阪府に迫り利用者本位の運用に改善に取り組んできた事例の紹介がされ、介護保険を良くするために現場からの発信と自治体・国に向けた運動の大切さを話されました。



参加者からは「介護保険の基本理念を忘れず、利用者の立場に立った行政への働きかけも含め、たたかうケアマネージャーを目指していきたい」「おかしいな？と思ったことは、

訴え続けること、学習し行政と交渉することが大切と思った。大阪社保協のねばり強さに感動です」「とても興味深く聞けました。通所職員として、介護保険について勉強の日々ですが、納得できない行政に対応にあきれて笑いがでるほどでした。介護保険改悪に立ち向かえるよう訴えていきます」などの感想が出されました。

講演後、7つの分科会(6つの職種別分科会、事業運営と今後の事業展開)を行い、介護保険10年の振り返り、困難事例、教育・人づくり、職種別課題、事業運営と今後の事業展開の分科会では地域連携や経営改善の問題などについて交流を行いました。



(2010年7月17日 兵庫民医連事務局 藤川博司さんより)

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp